

## X10b 天文学ネットワーク図書館の概要と今後の方針

木下 大輔 (東京理科大・物理)、大木 健一郎、渡邊 香理 (国立天文台)、志岐 成友 (東大・天文)

国立天文台の天文学ネットワーク図書館が1999年4月23日に試験的に運用を開始した。天文学ネットワーク図書館とは全国の天文関係者が利用できる「電子図書館」である。紙の媒体が主体の通常の図書館と異なり、天文学ネットワーク図書館では情報がWWW経由でデジタル化された形で提供される。URLは<http://lib.nao.ac.jp/>である。ネットワーク接続された計算機とウェブ・ブラウザさえあれば利用することができるため、図書室に実際に足を運び、文献のコピーを1ページ1ページとるといった繁雑な作業から解放される。また、検索機能を有効に利用することによって必要な情報まで容易かつ迅速にたどり着くことができるというメリットがある。天文学ネットワーク図書館の主要なサービスは、「個人書棚」をそのインターフェースとして利用することができる。個人書棚に登録することによりユーザー毎に専用のデータベースが用意される。そのデータベースにはユーザーが利用した文献情報が蓄積されていく。蓄積された情報は将来にわたってウェブページから簡単に再利用することができる。ADSなどの論文データベースの直接利用との最大の相違点は、この個人書棚による論文データの蓄積・再利用にある。使い方によっては見つけ出した論文を紙に印刷して保存する必要もなくなる。もう一つ別のサービスとして主要天文学雑誌のなかから研究者個人が興味のある分野の新着文献に関する情報を約1週間ごとに電子メールで届けている。これはWWWでの利用も可能である。他にも主要な文献データベースの横断的な検索、部分的に完成した国立天文台(三鷹)のOPAC(Online Public Access Catalogue)を用いた書誌情報検索などが利用できる。国立天文台の天文学ネットワーク図書館の提供するサービスの概要と今後の開発方針を報告する。